



ドラマでいわきPR プレDCへ公開、人気呼ぶ

福島県とJRなどが連携する大型観光企画「ふくしまプレデステイネーションキャンペーン」

ン(DC)が四月一日から六月三十日にかけて、県内全域で展開される。福島県の誕生から百五十年、東日本大震災から十五年の節目となる、来年開催の「ふくしまDC」に向け、機運を盛り上げていく。

キャッチコピーは「しあわせの風ふくしま」。「風の恵」「風の香」「風の詞(うた)」「路(みち)」の四テーマごとの特別列車運行、祭りの実施などを企画している。いわき市内では、本県沖の海産物「常磐もの」のPRイベントを繰り広げる。

市内各地でロケも

これに先駆け、いわき市やいわき観光まちづくりビューローなどで組織する「いわき観光共同キャンペーン実行委員会」は、市内の魅力伝えるショートドラマ全二話を公開した。三月三日現在、総再生数は二百三十万回を超え、人気を呼んでいる。

ショートドラマ「しあわせの風吹く島」特設サイト



ドラマのタイトルは、プレDCのコピーに合わせた「しあわせの風吹く島」。東京で働く主人公が、母親の病気を機に古里いわきに戻り、「幸せ」を見いだすストーリー。オールいわきロケで制作され、国宝の白水阿弥陀堂(内郷)やスパリゾートハワイアンズなどが舞台。

若者たちへの訴求を目的とした、スマホ画面用の縦型動画。二話ともに時間は三分弱で、動画投稿サイト「TikTok」で公開された。縦型ショートドラマのパイオニア「ここ俱樂部」が制作。所属する、いわき市出身の早坂架威さんが原案・監督・主演を務めた。

特設ページは、いわき市観光サイト内 (<https://kanon-iwaki.or.jp/feature-shortdrama/top>)。「TikTok」の投稿アカウントは「ここ俱樂部」。

高校生による書道 パフォーマンス実施

市立美術館で開かれている、第五十四回いわき市民美術展覧会「書の部」の関連事業「高校生による書道パフォーマンス」が、二月十一、十六の両日、同館ロビー二階で開かれた。

参加したのは、磐城高、磐城桜が丘高、いわき秀英中・高書道部の三校。各校の凛々(りり)しい袴



道部 力強く書き上げる磐城高書道部

(はかま)姿の部員らは、Mrs. GREEN APPLE(ミセスグリーンアップル)や、Official髭男dism(オフィシャルヒゲダンディズム)などの曲に合わせてパフォーマンス。縦四×横六メートルの巨大な紙に、心の叫びや未来への希望を力強く書き上げた。

今回初参加の磐城桜が丘高書道部長の二年根本未彩(みあ)さんは、「テーマは個性で、桜梅桃李」という言葉を入れました。自他ともに認め合い、大切にできるような未来であってほしいという思いを込めて書きました」と、笑顔で話していた。

市障がい者職親会 9月にも全国大会

いわき地区障がい者就労支援セミナー「ともに」は、ともにかがやく」が二月二十日、平鎌田、東日本国際大学で開か

れた。席上、職親(おや)会への全国大会を九月にも開催する方針が示された。障がいのある人の就労などを支援する「NPO法人いわき市障がい者職親会」(石山伯夫理事長)が毎年開催しており、二十七回目。一年間の勉強会の総まとめの位置づけという。石山理事長があいさつで、「全国に同じ活動をしている団体があり、ネットワークを作りたい。九月には全国大会、フェスティバルを開催したい」と構想を明かした。

セミナーでは、勤続奨励賞の表彰、JX金属磯原工場(茨城県)の社員による講演などを実施。「ともに働く個性と力を活かす業務設定(職場づくり)を考える」と題したシンポジウムでは、同社、アルパインマニユファクチャリング、県教育庁の担当者らが意見を交わした。



表彰や講演などが行われたセミナー